

研究目的・方法

全国に存在する神社・お寺の数はそれぞれ約8万1千、約8万6千にのぼる。中学校の数は全国で約1万で、あれほど多いと思われるコンビニの数は5万程度なので、これは相当な数である。これほどの数の「宗教的空間」が全国にくまなく分布している国は珍しいとも言えるが、戦後、急速な都市への人口移動と経済成長へのまい進の中で、そうした存在は人々の意識の中心からはずれていった。しかし興味深いことに近年、地域コミュニティへの関心が高まる中で、鎮守の森という、高度成長期に人々の関心の対象からはずれていった場所を地域の貴重な「社会資源」として再評価し、それを子育てや高齢者ケアなどの福祉的活動や、環境学習等の場として活用するという例が現れてきている。

本研究は、コミュニティと自然信仰が一体となった地域の拠点としての鎮守の森を現代的な視点から再評価し、
 ①それを新たな課題である自然エネルギーの分散的な整備と結びつけた「鎮守の森・自然エネルギーコミュニティ・プロジェクト」や、
 ②“自然との関わりを通じたケア”ないし世代横断的なコミュニティ的つながりの通路としての「鎮守の森セラピー」という形で、いずれもアクション・リサーチ的な実践研究として展開するものである。

1. 鎮守の森・自然エネルギーコミュニティ・プロジェクト

(1) 先行例としての石徹白地区(岐阜県郡上市白鳥町)での試み



小水力発電(大)【上掛け水車型/750W/落差3m】



「石徹白(いとしろ)地区は、白山信仰の拠点となる集落であり、小水力発電を見に来た方方には、必ず神社にお参りいただいています」
 「自然エネルギーは、自然の力をお借りしてエネルギーを作り出すという考え方であり、「地域で自然エネルギーに取り組むということは、地域の自治やコミュニティの力を取り戻すことであると、私どもは考えております」
 (NPO地域再生機構の副理事長、平野彰秀氏の発言)

(2) 二事例(長野県小布施町、宮崎県高原町)の概要

長野県小布施町

- 自治体主導の再生可能エネルギー検討
- 検討結果の1つとして小水力発電の事業化(実際の事業者は民間)
- 神社での水力利用の検討



宮崎県高原町

- 住民主導の小水力発電検討
- 神社や祭(神楽)を背景とした地域コミュニティによる事業推進

長野県小布施町

- 町役場が住民協働でエネルギーを考える場として設けた「小布施エネルギー会議」を端緒として小水力発電検討
- 一定以上の事業性がある発電事業(約200kW、主体は民間)の他に町中心地の神社での水力についても検討が進行中



宮崎県高原町

- 地域住民、まちおこし団体が豊富な町内水資源の活用を検討していた段階から支援を行い、現在詳細設計の段階
- 継続的な開発を検討しており、狭野神社敷地内外の水路での自家電源確保のための水車なども検討



(3) 分析(推進主体比較)

自治体	主体	住長
内部の作業であり、県などの他機関とも話がしやすい	公的作業	市町村レベルには伝手があることもあるが、県などの他機関との折衝には市町村の協力が不可欠
公益性や信頼性などがあると判断されやすい	補助金等	自治体との協働体制などをアピールする必要あり
異動や変更がある可能性がある。自治体のシステムの中に組み込まれる	主要人物	関わる個人が変わることはないが、将来的な体制を整える必要がある
自治体の中で閉鎖的に、住民に情報や熱意が伝わらない可能性がある	合意形成	販賣の量販店ありきでの話し合いになるため、話が進みやすい。反面既存の関係がない場合は困難になる
自治体の予算があるが、その使用にはさまざまな調整が必要になる	資金調達	補助金がなければ基本的に自己負担

【考察】

- 神社や鎮守の森等は自然資源が保持され、自然エネルギーのポテンシャルが大きいことが多い
- 過去にも自然エネルギーの利用が行われた事例もある(ex.小布施・逢瀬神社の水車)
- 住民主導の自然エネルギー導入の地域合意形成においては既存の信頼関係が重要となるが、神社組織が重要なファクターとなる(ex.高原町・狭野神社/神楽)
- 一方で自然エネルギーと鎮守の森ないし神社を強固に結びつけている事例はまだなく、今後の研究課題にするともにプロジェクト推進を図っていく

2. 鎮守の森セラピー

(宮下佳廣(森林インストラクター、農学博士)・鎮守の森コミュニティ推進協議会が開発)

(1) 鎮守の森セラピーの基本プログラム

<2015年6月25日 於白幡天神社(市川市)>



【実施風景】最初に気功を行い、続いて樹木に寄り添う、抱きつく、寄りかかると等自由なスタイルで目を閉じ、風の音を聞きながら瞑想。

【プログラム】

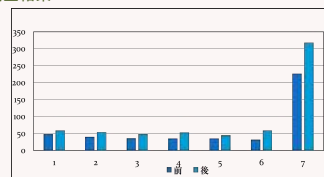
- | | |
|------------------------------|---|
| ① 神社参拝の作法の説明……………20分 | ⑥ 瞑想の時間……………10分 |
| ② 参加前の血圧測定(記録用紙に各自記入)……………5分 | 参加者の気に入った大樹に寄り添う、抱きつく、寄りかかると等自由なスタイルで目を閉じ、風の音を聞きながら瞑想 |
| ③ 神社の由緒・歴史を説明(神社に依頼)……………30分 | ⑦ 参加後の血圧測定(開始時との比較)……………5分 |
| ④ 境内を散策……………10分 | ⑧ 紙芝居(セラピーの説明/なぞなど)……………15分 |
| ⑤ 樹林内気功……………5分 | ⑨ 感想(アンケート)……………10分 |

【ROS(主観的回復感)調査】

質問項目

- 穏やかで落ち着いた気分である
- 集中力と周囲に対する注意力が高まっている
- 毎日の日課に対して新たな意欲と活力を感じる
- 元気を取り戻し、安らかでつらい気分である
- 日々の心配に煩わされることがない
- 頭がすっきりしている
- 合計

調査結果



- 受講者11名中10名が受講前よりトータルで好結果となっている。
- セラピーにより大きく改善されたのは、
 ○頭がすっきりしている……………27ポイント改善
 ○元気を取り戻し、安らかでつらい気分である…18ポイント改善
 ○集中力と周囲に対する注意力が高まっている…14ポイント改善
 ○個別の項目で受講後にマイナスになったものは5/66項目

(2) 鎮守の森セラピーの意義と課題

- 自然との関わりを通じたケア、癒しの場として、身近な森としての「鎮守の森」を積極的活用。
- 地域の高齢者や子どもなど多世代が様々な健康増進活動や世代間交流を行う場として。
- 今後、特に増加する高齢者にとってのニーズや意義が大では。(ひきこもりや孤独死防止などの意義も)
- 関連分野の関係者(神社・寺院関係者、森林関係者、森林インストラクター、社叢林インストラクター、医療・福祉関係者、自治会や地域の団体等)をつなぐことの重要性。

3. 今後の展望と課題

- 現代社会では、個人はその土台にある「コミュニティ」や「自然」、ひいては「スピリチュアリティ」(精神的なよりのところ)とのつながりを失いがち。(右図参照)
- 鎮守の森コミュニティプロジェクトはこうしたつながりを伝統文化と現代的な課題を結びつける形で回復させようとする一つの試み
- なお試行錯誤の途上であり、様々な分野の関係者と連携を広げつつさらに展開していく予定

個人・コミュニティ・自然をつなぐ

